

ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	保育科 特任講師 深 沢 佐 恵 香 （ふかさわ さえか） FUKASAWA Saeka
所属	保 育 科
学位	修士（児童学）（日本女子大学）
資格・免許	保育士資格（東京都－109322） 幼稚園教諭専修免許状（平 29 幼専第 11 号） 小学校教諭専修免許状（平 29 小専第 37 号）
学歴・職歴	<学歴> 日本女子大学家政学部児童学科 卒業 （学士（児童学）） 日本女子大学家政学研究科児童学専攻 修士課程修了 （修士（児童学）） <職歴> 東京都内私立幼稚園 教諭（2020 年 7 月まで） 日本女子大学家政学研究科児童学専攻 学術研究員（2021 年 3 月まで） 甲府市立小学校 学習指導員（2021 年 3 月まで） 山梨学院短期大学保育科 特任講師（現在に至る）
担当科目	保育課程論 保育内容（人間関係） 子どもと人間関係 子育て支援の理論と方法 子ども家庭支援の心理学 子育て支援演習 幼稚園教育実習指導（1 年） 幼稚園教育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅰ 基礎演習 卒業演習Ⅰ・Ⅱ 保育内容特論（人間関係） 保育課程特論 家庭問題特論Ⅱ
専門分野	保育学
現在の研究テーマ	幼児の主体的な遊びと保育者の援助
競争的資金等の研究課題	—
所属学会	日本保育学会 日本保育者養成教育学会 乳幼児教育学会
メッセージ	乳幼児教育は、人間形成の基礎を培う重要な教育です。それを学ぶ皆さんには、ぜひ短大で学んだことを社会で生かして欲しいと思います。少しでもそのお手伝いをできれば幸いです。

教育		
2022 年 4 月～2023 年 3 月		
教育方針		体験を通して学ぶ授業づくり
授業	授業の工夫	<子どもと人間関係> 保育における“人間関係”について、学生自身が体験を通して学べるよう第 1 回授業時にグループ作りを行い、同一グループで協同的な活動（ペーパータワーの作成、保育場面についての話し合い、子どもを取り巻く問題についての課題発表など）を実施した。また、活動の振り返りや教員からのフィードバックを随時行うことで、活動と学習内容の関連が意識づけられるよう工夫した。 <保育内容総論> これまでの保育内容に関する学びを振り返った後、実際の保育場면을想定した模擬保育の実践を学生全員が行う機会を設けた。小グループごとに実践を行い、実践後に感想用紙を交換することで、学生同士意見が出しやすい環境づくりを工夫した。また、学生自身が実践した模擬保育について、5 領域や発達などの視点から振り返ることで、様々な保育知と実践を関連付けることができるよう工夫した。 <子育て支援演習> 子育て支援の実際を知れるよう、地域の子育て支援現場で活躍されている方をゲストスピーカーとしてお招きした。また学生には、系列幼稚園付設の子育て支援センターでの 2 日間の実習（実地演習）の機会も設けた。地域子育て支援の現状と課題子育て支援の理念と具体的方法、子育て支援における保育者の役割等について、ゲストスピーカーによる講義と実地演習の両側面から学べるようにした。 <保育内容特論（人間関係）> 系列幼稚園との連携のもと、園児を対象とした実践（人間関係力を活性化し可視化することを目的とした実践）を行った。学生が企画・準備・実施・振り返りを主体的、協働的に行えるように指導、援助を行った。
	授業改善のための取組	授業後のレスポンスシートを丁寧に確認し、要望等あった場合は随時対応している。また、授業冒頭でレスポンスシートの感想・質問を紹介し、授業内容に反映させる等、学生と教員の双方向型のコミュニケーションが図れるよう取り組んだ。また、前年度の授業評価アンケートや定期試験・レポートの成績状況を整理し、理解度や満足度の低い点については随時見直しを行っている。

教育（つづき）		
2022 年 4 月～2023 年 3 月（つづき）		
ゼミ	ゼミ活動 (卒業演習) (修了研究)	＜卒業演習＞ 子どもでもできるアイスブレイク・コミュニケーションゲームを実施することで、保育・教育の一実践例を紹介すると共に、学生同士のコミュニケーション促進を図った。 卒業レポートについて、「10 の疑問」のワークシートを作成することで、学生一人一人が自身の興味関心の分野を自己認識できるようにした。また、「研究計画」ワークシートを作成し、研究テーマの目的や具体的な内容、研究方法等、学生自身が計画的に研究を進められるように指導した。個別の指導を中心に行うことで一人一人の状況に応じた支援に努め、定期的に全体中間報告会を行うことで学生同士のコミュニケーションも取れるようにした。ゼミ内発表会では、学生の司会進行のもと、ゼミ生全員が PowerPoint によるプレゼンテーションを行った。
	卒業レポート・ 修了研究テーマ	・告白の成功・失敗の要因ー告白をする時間と成功率は関係あるのかー ・貧困と教育格差ーベーシックインカムに向けての利点と課題ー ・リズム遊びによる効果 ・保育学生の進路の変化と実習が与える影響ー入学時との比較を通してー ・保育学生の考えるライフプランー結婚や出産についてー ・読み聞かせがもたらす効果 ・LDH の成り立ちと歩み ・子ども達一人一人が充実した小学校生活を送るために、教師がすべきことは ・男女の恋愛観について ・性別の固定概念ー～らしくにとらわれた保育ー ・新型コロナウイルスが子どもと親に及ぼす影響について ・反抗期によって変化する関係性 ・保育学生の虫に対する意識について
課外活動	ー	
2022 年 3 月以前		
主な教育業績	ー	

研究		
2022 年 4 月～2023 年 3 月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（著 書） めばえ幼稚園の保育実践－幼児たちの自ら共に生き抜く力を育む場として－ （共著）	2023 年 3 月	ななみ書房
（学術論文） 幼稚園・保育所・認定こども園に対して学生が持つイメージ －保育科 1 年生を対象としたアンケート調査を通して－ （単著）	2023 年 3 月	山梨学院短期大学研究紀要 第 43 卷
（学術論文） ごっこ遊びの深まりを支える保育者の援助－2・3 歳児クラスの事例から－ （共著）	2023 年 3 月	日本女子大学大学院紀要 第 29 号
2022 年 3 月以前（主なもの）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文） 「ごっこ遊び」研究の傾向 －保育実践を対象とした調査に着目して－ （共著）	2022 年 3 月	日本女子大学紀要 第 69 号
（学術論文） 自然との関わりに見る「幼児期にふさわしい生活」－自然を生かした保育を実践する保育者の語りを通して－ （共著）	2021 年 3 月	日本女子大学大学院紀要 第 27 号
（学術論文） 三法令改訂を保育者はどのように受け止めたか－管理職への聞き取りから－ （共著）	2020 年 3 月	日本女子大学家政学部紀要 第 67 号
（学術論文） 幼稚園教育要領改訂にともなう幼稚園の変化－研究動向と今後の課題－ （共著）	2019 年 3 月	日本女子大学家政学部紀要 第 66 号
（学術論文） 幼稚園教育要領改訂とこれからの幼児教育 （単著）	2018 年 3 月	日本女子大学院紀要 第 24 号

研究		
2022 年 3 月以前（主なもの）（つづき）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文） 遊びを支える保育者の援助とは何かー幼稚園年長児における総合的な造形活動を通してー（修士論文） （単著）	2018 年 3 月	日本女子大学家政学研究科児童学専攻
（学術論文） 幼児に“まかせる”保育とは？ー幼稚園年長児のフィールド観察を通してー （単著）	2017 年	子どもロジャー VOL. 21
（その他：研究発表） 幼稚園年長児の造形遊びに対する保育者の援助（2） （単著）	2018 年 5 月	第 71 回 日本保育学会
（その他：研究発表） 幼稚園年長児の造形遊びに対する保育者の援助（1）ー総合的な活動としての「インディアン祭り」の事例を通してー （単著）	2017 年 5 月	第 70 回 日本保育学会
社会貢献		
産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等		
2022 年 4 月～2023 年 3 月		
・免許法認定講習 保育内容特論（人間関係）講師 ・やまなし保育士・保育所支援センター（山梨県社会福祉協議会内）「令和 4 年度 保育のお仕事 就職・復職応援 Web セミナー」 講師 ・保育活動におけるリスク・コミュニケーション研修 講師 ・山梨県立塩山高等学校 連携事業 講師		
2022 年 3 月以前（主なもの）		
・山梨英和高等学校 連携事業 講師 ・日本保育者養成教育学会第 6 回研究大会 実行委員		
受賞 ※個人、所属団体		
—		